介護DXを利用した抜本的現場改善事業事業

公開用

課題名：介護現場における医療・介護連携関連業務の高度化・効率化

代表機関／代表者：MUSVI株式会社／大野木 健
分担機関：パラマウントベッド株式会社、芙蓉開発株式会社
研究期間：令和７年８月～令和８年３月

研究開発目的

- 日本の介護施設では、高齢化率の上昇や医療必要度の高まりにより、通院介助の負担が増大している。そこで、本研究では、オンライン診療を通して、①通院介助業務の負担軽減および効率化、②オンライン診療の活用による施設入所者の身体的負担の軽減、③ICTによる診療情報提供の精度向上、④職員の業務効率改善と満足度向上、⑤医療機関との連携強化とモデルの普及可能性の検証を目的とする。

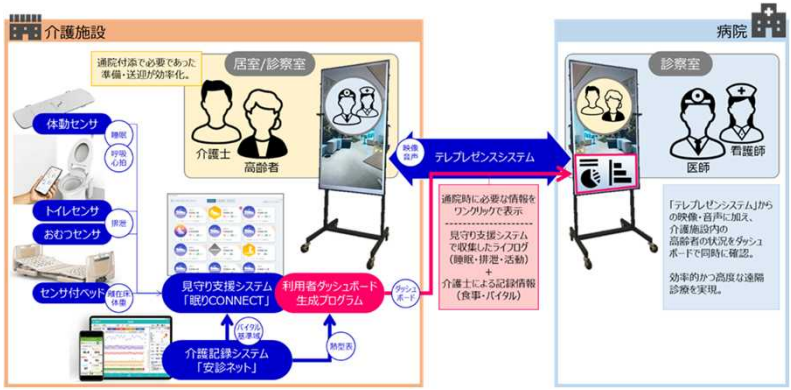
取り組み

- 特に医療機関へのアクセスが困難な離島や過疎地でのモデルケースを創出すべく、長崎県新上五島町において、オンライン診療実施時の各種介護DX機器の活用を試行する。
- 具体的には、介護ロボットで自動記録された「ライフログデータ」、バイタル記録から自動生成された「熱経表」と「リスク評価」を使用して、従来受診時の提供情報よりも客観的な経時データを医療機関と共有する。
- さらに、対面と変わらない表情や動きをリアルタイム映像と音声で確認できる「コミュニケーションシステム」を組み合わせることで、オンライン診療時のスムーズなコミュニケーション・情報授受を実現する。

期待される成果

- 介護施設にとっては通院介助業務の負担軽減・効率化や連携データ活用によるタスクシフト促進、要介護者本人にとっては通院の身体的負担の軽減・満足度向上、医療機関にとっては診療情報提供の精度向上による業務効率化が期待される。
- 投資対効果の可視化による介護DX機器導入判断の促進も期待される。

眠りCONNECTコミュニケーションパッケージ



各種介護DX機器

眠りCONNECT　　安診ネット　　タイムスタディアプリ